

2024 年 1 月 1 日
株式会社 ispace

ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田 武史 2024 年 年頭所感 シスルナ経済圏構築を目指して、さらなる挑戦へ

新年あけましておめでとうございます。2024 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の今頃、民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション 1 において、ispace が開発したランダー（月着陸船）が打ち上げ後 1 カ月にわたり深宇宙を安定して航行したことを確認しました。その後、4 月には民間企業として世界で初めて月面着陸を試みるという偉業を成し遂げ、ミッション 1 マイルストーンの Success 1 から 8 の成功により、民間企業による月ミッションの実施が可能であることを実証し、世界中に感動と今後の可能性を提示することができました。この貴重な知見と成果は、今後 ispace が、地球と月の間の空間に構築されるシスルナ経済圏において輸送サービスやデータサービスを提供する事業者として成長するための大きな先行者優位を築いたと考えております。ミッション 1 は、“Never Quit the Lunar Quest” と、私たちの心の炎を消すどころか、より強くし、後続のミッションへ向けて速やかに再起する原動力となりました。

同じく 4 月には東京証券取引所グロース市場への上場を果たし、10 月には経済産業省が実施する「中小企業イノベーション創出推進事業」において、宇宙分野の「月面ランダーの開発・運用実証」をテーマに、120 億円の補助対象事業として採択されるなど、将来の事業成長の基盤を築くことができました。さらには、グローバルでの組織体制の強化を目指し、元米航空宇宙局（NASA）宇宙飛行士の Ronald J. Garan Jr. を米国子会社である ispace technologies U.S., inc.（以下 ispace U.S.）の CEO に迎え、多様性やインクルーシブな組織文化に関して豊富な経験を有する今村健一を ispace の CPO（Chief People Officer）に迎えるなど、より一層の成長に向けた準備も着々と進めることができました。

これらの発展は、共に歩んできた全ての従業員の貢献と、それを支え続けてくれたご家族の皆様、ispace のビジョンを信じ続けてくれている株主、HAKUTO-R パートナー、政府関係者、お客様など多くの皆様のご支援の賜物であると考えております。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて、2024 年は、「HAKUTO-R」ミッション 2 の打ち上げを冬に予定しており、再起の意味を込めて RESILIENCE と名付けたランダーに、欧州子会社 ispace Europe が開発を進めているマイク

ロローバーを搭載して再び月を目指します。ミッション 2 ではシスルナ経済圏の構築を推進する上で重要施策となる、資源探査の初期的な取り組みを実施する計画ですのでどうぞご期待ください。

ミッション 2 と並行し、ispace U.S.ではミッション 3 に向けて APEX 1.0 ランダーの開発を推進します。NASA の商業月面輸送サービス (CLPS: Commercial Lunar Payload Services) CP-12 へのサービス提供に向け、APEX1.0 の開発を進める ispace U.S.が、今後米国の様々な月探査ミッションの戦略的パートナーとして地位を確立していくことを期待しています。

ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田 武史



世界各国が月を目指して様々なミッションを計画する中、日本、米国、ルクセンブルクという世界 3 拠点で事業を展開する ispace には固有の強みがあります。このグローバル・プレゼンスを活かし、多様性に富んだ従業員一同としっかり手を携え、まずは輸送を通して、政府や民間の月ミッションに貢献していきます。本年はミッション 2 からミッション 6 に向けて並行して複数の準備を進めるといふ新たな挑戦の年でもあります。常識にとらわれず果敢に挑戦を続け、ビジョンである “Expand our planet. Expand our future.” への実現へ向けて精進してまいります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在 250 名以上のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続く 2024 年冬ⁱにミッション 2 の打ち上げを、2026 年ⁱⁱにミッション 3、2027 年ⁱⁱⁱにミッション 6 の打ち上げを行う予定。ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2024 年 1 月時点の想定

ⁱⁱ 2024 年 1 月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2024 年 1 月時点の想定